



を注いだ後の茶葉の色)および抹茶の色は「さきみどり」「やぶきた」「おくみどり」が優れ、抹茶の色の濃さを示す色相角度も高い数値を示し

抹茶需要拡大に てん茶栽培に適した 品種、栽培体系確立へ

近年、急須で入れるリーフ茶の消費が低迷する中、抹茶の需要は拡大しており全国の茶産地で増産されています。しかし、県は主に蒸し製玉緑茶の産地として発展してきたため、抹茶の原料となるてん茶栽培に適した品種や栽培技術が確立されていません。そこで、2018年から2、3週間程度の長期間の被覆による、生葉収量やてん茶の色などの品質への影響を調査し、県の奨励・認定品種の中から、てん茶栽培に適した品種を選定しました。

その結果、一番茶、二番茶をてん茶として製造した場合、一番茶で、から色(お湯

で優れました。生葉収量は同程度となりました。

今後は、長期間の被覆による樹勢の低下が懸念されるため、収量・品質が安定する栽培体系を確立します。

(長崎県農林技術開発センター 果樹茶研究部門 茶葉研究室 研究員 柿山息吹)

一番茶および二番茶のてん茶・抹茶品質

品種	一番茶				二番茶			
	から色(点)	抹茶の色(点)	色相角度(h°)	生葉収量(kg/10a)	から色(点)	抹茶の色(点)	色相角度(h°)	生葉収量(kg/10a)
さきみどり	3.7	4.3	119.1	514	2.0	2.7	112.5	356
やぶきた	4.0	4.3	118.7	576	2.5	3.2	112.2	348
おくみどり	4.2	4.2	118.9	774	2.8	3.2	113.0	330
さえあかり	3.0	3.7	118.4	591	2.2	2.7	112.0	425
さえみどり	3.0	3.3	116.3	450	2.2	2.2	111.8	464